

学習指導要領改訂の 3つの視点

「論点整理」では、学習指導要領改訂の方向性を図のような3つの視点で示しています。

新しい時代に必要となる
資質・能力の育成

- 1 何を知っているか、何ができるか** 個別の知識・技能
各教科等に関する個別の知識や技能など。身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。
- 2 知っていること・できることをどう使うか** 思考力・判断力・表現力等
主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。
- 3 どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか** 主体性・多様性・協働性・学びに向かう力・人間性等
①や②の力が働く方向性を決定付ける情意や態度等に関わるもの。以下のようなものが含まれる。
 - 主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
 - 多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会作りに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性に関するもの。

視点.1 何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む
観点からの学習評価の充実

視点.2 何を学ぶか

育成すべき資質・能力を踏まえた教科・
科目等の新設や目標・内容の見直し

- グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化(小学校高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- 国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善(地理歴史科における「地理総合」「歴史総合」、公民科における「公共」の設置等、新たな共通必修教科目の設置や科目構成の見直しなど抜本的な検討を行う。)等

視点.3 どのように学ぶか

アクティブ・ラーニングの視点からの
不断の授業改善

- 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

(参照：文部科学省 教育課程企画特別部会論点整理補足資料)

育成すべき資質・能力の 3つの柱

「何ができるようになるか」という視点では、育成すべき資質・能力の3つの柱(①～③)が見えてきます。今までも個別に重視されてきたのですが、今回の改訂では、より教科横断的な議論が重要になります。つまり、個別の知識・技能を体系化した計画にとどまらず、「**それを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか**」までを視野に入れて、新しい教育課程や学習指導要領等を議論することになります。

1 何を知っているか、何ができるか

個別の知識・技能
どのように学ぶか
(アクティブ・ラーニングの観点からの不断の授業改善)
学習評価の充実
カリキュラム・マネジメントの充実(注)

2 知っていること・ できることをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

3 どのように社会・世界と関わり、 よりよい人生を送るか

主体性・多様性・協働性・学びに向かう力・人間性等

(参照：文部科学省 論点整理(補足資料) 育成すべき資質・能力の3つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念)
(注)カリキュラム・マネジメント：各学校の教育目標を実現するために、各学校が主体となって、教育課程を編成、実施、評価、改善していくという考え方。(参照：文部科学省 論点整理)

必要な支援方策

これからの先生たちには、「**アクティブ・ラーニング**」や「**カリキュラム・マネジメント**」といった新しい概念を理解し、**3つの柱**を子供たちに**バランスよく育んでいくための力**が求められます。そのためには、**先生一人一人の力量を上げるための研修**を行ったり、**ICTをふくむ必要な環境を整備**していくことが必要です。研修については、校内だけでなく、校外のさまざまな機会を活用することが重要です。

B-1 Intel® Teach Elements プロジェクト型アプローチ

課題発見から解決まで、“思考支援型授業”を実現します

Intel® (インテル) では、児童・生徒が来るべき時代を自分たちで形成し、世界的に活躍していくために、自らが課題をみつけ、自ら考え、解決するための力(21世紀型スキル)を育成することが重要と考えています。児童・生徒が主体的に課題を解決する“思考支援型”授業を実現するため、ICTを効果的に活用したアクティブ・ラーニングの一つである

プロジェクト型学習の手法を用いた「Intel® Teach Elements プロジェクト型アプローチ」による授業デザインや授業運営、指導手法、そして評価の方略をご提供します。

Intel® Teach プログラム基本コースおよび、ワークショップから構成する研修を、Intel® Teach Elements PBA 公認トレーナーが実施します。

Intel® Teach Elements プロジェクト型アプローチの特長

「プロジェクト型アプローチ」は、5つのモジュールで構成されています。各モジュールのオンライン学習で概念や手法を学習した後、アクションプランのアクティビティを通して、実践に適用させていきます。

モジュール
1 プロジェクト型学習の
特徴とメリットを学ぶ

モジュール
2 プロジェクト型学習の
設計の手順を学ぶ

モジュール
3 プロジェクト型学習の
評価を学ぶ

モジュール
4 プロジェクト型学習の
授業運営を学ぶ

モジュール
5 プロジェクト型学習の
多様な指導手法を学ぶ

Action Plan

各モジュールで学習した概念を整理し、実践に応用するためのアクティビティです。

B-2 先生のための「7つの習慣®」

教員に求められる、新しいリーダーシップの形

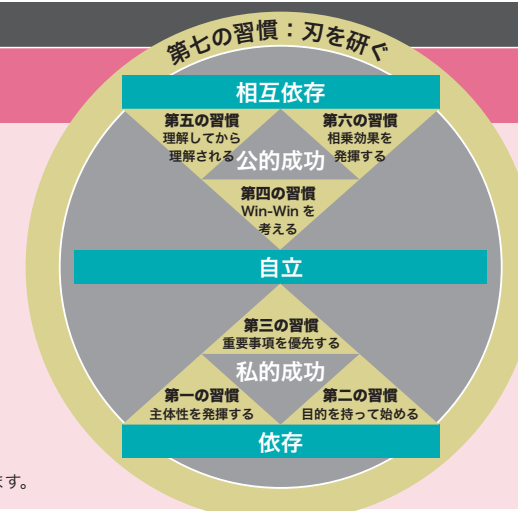
「7つの習慣®」は全世界で3,000万部、日本でも200万部を超える世界的ベストセラー書籍です。

昨今教育現場では「アクティブ・ラーニング」や「ICTの活用」といった、さまざまな新しい取り組みが求められていますが、なぜそのような教育改革が必要なのか、教育の目的・目標は何かを考えていただき、教員一人一人がリーダーシップを発揮できることを目的とした研修です。

「人格主義に基づいたリーダーシップの原則・インサイドアウトから学校全体の改革を」をテーマに進めます。

※「7つの習慣®」はフランクリン・コヴィー・ジャパン株式会社の登録商標です。

※本研修はフランクリン・コヴィー・ジャパン株式会社の協力の下、教員向けに「7つの習慣®」を提供します。



アクティブ・ラーニングに最適な環境づくり

アクティブ・ラーニングルーム



先端のICT技術とさまざまな講義形態に対応できる可動式の家具やマルチスクリーンを備えた学習空間。アクティブ・ラーニングに最適な環境づくりを内田洋行はお手伝いします。

ウチダ グループ発表板 アクティブボード



考える、議論する、まとめる。アクティブな学習環境を実現します。軽量なので持ち運びが簡単です。

片面ドット入り(50mm間隔)
両面ホワイトボード(磁石貼り付け可能)



いい「学校・教育・授業」づくりを支援いたします。
www.uchida.co.jp/education

内田洋行

■商品についてのお問い合わせは お客様相談センター | フリーダイヤル ☎ 0120(077)266

東京 〒135-0016 東京都江東区東陽2-3-25 ☎ 03(5634)6402
仙台 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡2-4-22 仙台東口ビル6F ☎ 022(292)2783
大阪 〒540-8520 大阪市中央区泉町2-2-2 ☎ 06(6920)2641
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦2-2-2 名古屋丸紅ビル13F ☎ 052(222)7234
札幌 〒060-0031 札幌市中央区北1条東4丁目1-1 ☎ 011(214)8630
福岡 〒810-0041 福岡市中央区大名2-9-27 ☎ 092(735)6240

*当カタログ掲載内容(仕様、価格等)は諸般の事情により予告なく変更される場合があります。予めご了承ください。
DS・3924・4・2108P0000TK

ウチダ 教員研修サービス



いい学校づくり、
いい教育づくり、
いい授業づくりを
支援します。

学校教育を取り巻く環境と背景

子どもたちの「主体的・対話的・深い学び」に向け、
教員の資質能力の更なる向上が求められています。

背 景

- 教育課程・授業方法の改革（アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、教科等を超えたカリキュラム・マネジメント）への対応
- 英語、道徳、ICT、特別支援教育等、新たな課題への対応
- 「チーム学校」の実現
- 社会環境の急速な変化
- 学校を取り巻く環境変化
 - 大量退職・大量採用→年齢、経験年数の不均衡による弊害
 - 学校教育課題の多様化・複雑化

主な課題 (研修)

- 教員の学ぶ意欲は高いが多忙で時間確保が困難
- 自ら学び続けるモチベーションを維持できる環境整備が必要
- アクティブ・ラーニング型研修への転換が必要
- 初任者研修・十年経験者研修の制度や運用の見直しが必要

具体的方策

- 校内の研修リーダーを中心とした体制作りなど校内研修推進のための支援等の充実
- メンター方式の研修（チーム研修）の推進
- 大学、教職大学院等との連携、教員育成協議会活用の推進
- 新たな課題（英語、道徳、ICT、特別支援教育）やアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等に対応した研修の推進・支援

文部科学省 これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）より抜粋

ウチダ教員研修サービスの特長

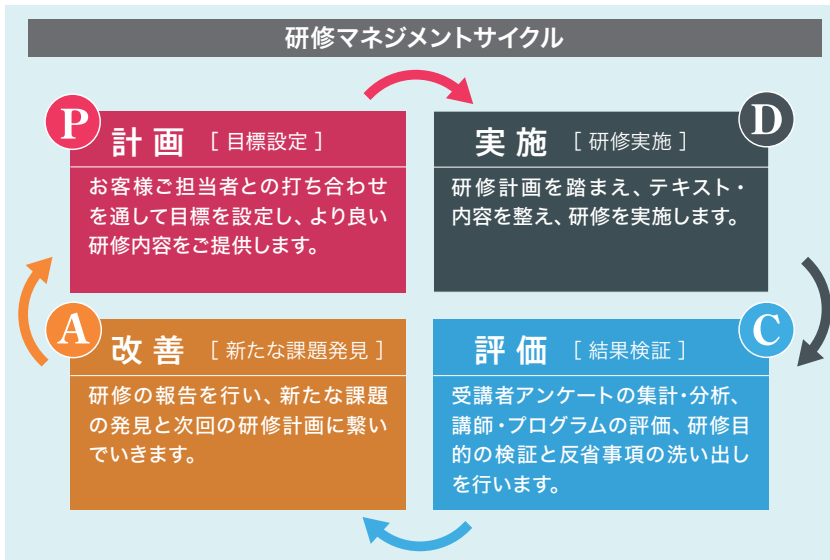
お客様の環境整備計画に基づき
研修の計画～改善までをご提案します。

内田洋行は長年に渡って学校教育の現場をサポートしてきました。これらの経験からお客様のICT機器の効果的な活用や授業デザイン力の向上を目指した教員研修をご提供しております。

今学校で求められる研修は、単一のスキルの習得ではなく、多様な知識やスキルを複合的に学び、授業の中でどう活かしていくのかを考える研修が重要だと考えます。

当社の教員研修は海外メーカーとのアライアンスを通じた最新技術情報や実践事例の紹介、教員養成系の大学との共同研究や全国で先進的な授業を実践されている先生方の知見などを取り入れ、効果的な研修のご提供を心掛けております。

ただ単に研修をご提供するだけでなく、お客様の良き相談相手となり、導入から効果的な活用までをトータルにご支援してまいります。



内田洋行は Apple Consultants Network (ACN) に参加しています。



コンサルタント
ネットワーク

内田洋行教員研修サービスはiPadの効果的な活用と授業におけるさまざまなソフトウェアの利活用方法をApple社と一緒に探求するとともに、より良い研修のご提供を目指し、常に研修プログラムの向上と改善に努めております。

Apple Consultants Networkとは
Apple社や他社のソリューションにも精通したプロのサービスプロバイダ、ITコンサルタントが参加しています。Apple社の新製品やソフトウェアの情報を随時入手することが可能であり、さまざまなプラットフォームに対応した幅広い技術サービスとサポートの提供を受けることが可能です。

ウチダ教員研修サービス 研修コース紹介①

ウチダはさまざまな教員研修コースを通して
ICT活用と授業づくりをご支援します。

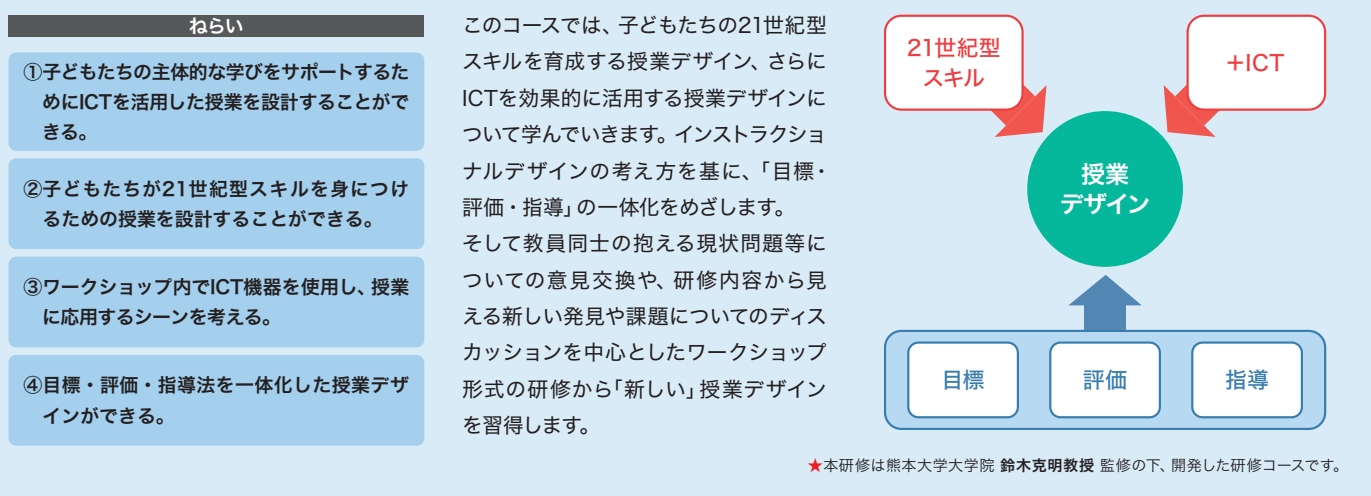


■ウチダ教員研修サービス一覧

	研修名	管理職	推進教員	一般
ウチダオリジナルコース紹介	A-1 効果的ICT活用による21世紀型スキルを育成する授業デザイン	○	◎	○
	A-2 タブレット活用コース Windows編	—	○	◎
	A-3 タブレット活用コース iPad編	—	○	◎
	A-4 「情報モラル教育」のための実践ワークショップ	○	○	◎
	A-5 「プログラミング的思考」を育むための実践ワークショップ	○	○	○
	A-6 全国学力・学習状況調査 調査結果分析ワークショップ	○	○	◎
その他	B-1 Intel® Teach Elements プロジェクト型アプローチ	○	◎	○
	B-2 先生のための「7つの習慣®」	◎	○	—

A-1 効果的ICT活用による21世紀型スキルを育成する授業デザイン ―児童・生徒の主体的な学びのために―

ワークショップで教員同士が意見交換



A-2 タブレット活用コース Windows編

Windows10 + Office365 を活用した魅力的で効果的な授業を探求します

「学習者中心の授業デザイン」をポイントに、ワークショップ形式の研修を通して自ら体験し、授業がどう豊かになるかを考える機会を持っていただくことを目的とした研修です。

One to One タブレットが導入されるにあたって、「一人一人に合わせた学習リソースとモバイルデバイスを組み合わせることでのような学習機会を強化できるのか」を探求していただきます。

A-3 タブレット活用コース iPad編

自ら体験し、考えるワークショップ形式の研修



「学習者中心の授業デザイン」をポイントに、ワークショップ形式の研修を通して自ら体験し、授業がどう豊かになるかを考える機会を持っていただくことを目的とした研修です。

One to One タブレットが導入されるにあたって、「一人一人に合わせた学習リソースとモバイルデバイスを組み合わせることでのような学習機会を強化できるのか」を探求していただきます。

習得いただくアプリケーションはお客様が自由に選べるようモジュール化していますので、研修時間や活動に応じてご選択ください。

※内田洋行はApple Consultants Network (ACN) の参加企業です。
★本研修はアップル社監修の下、開発した研修コースです。

A-4 「情報モラル教育」のための実践ワークショップ

最新のネットトラブルなどもご紹介

情報モラル教育

日常モラルの指導

+

情報社会の特性を理解

情報モラル教育として大切なことは、トラブル事例の提示はもちろんのこと、子どもたちが問題を「自分のこと」として自覚をし、どのように対処すればよいかを自ら考えられるようになることです。

本研修では、最新のトラブル事例の紹介から指導のポイント・情報モラル授業の計画まで、はじめて受講する先生にも習得しやすいよう、ワークショップ形式で学びます。

研修内容（例）

1. ネットトラブルの最新状況を知る
2. 児童・生徒の行動や状況を知り、課題を認識する
3. 指導する際のポイントを理解する
4. 授業の組み立て方を学ぶ

※上記は研修の一例です。ご希望に応じてカスタマイズ可能です。

A-5 「プログラミング的思考」を育むための実践ワークショップ

2020年から小学校で必修化されるプログラミング教育



2020年から小学校で必修化が予定されているプログラミング教育は、いま最も注目を集めています。

子どもたちが情報技術を効果的に活用しながら論理的・創造的に思考し、課題を発見・解決していくためには、コンピュータの働きを理解しながら、それが自らの問題解決にどのように活用できるかをイメージし、意図する処理がどのようにすればコンピュータに伝えられるか、さらにコンピュータを介してどのように現実世界に働きかけることができるのかを考えることが重要になります。これらの「プログラミング的思考」能力の育成を、いかに授業に反映させるのかをワークショップを通して考えていただきます。

A-6 全国学力・学習状況調査 調査結果分析ワークショップ

学校自身がデータを分析し、現状の特徴や課題をみつけれられるようになるために



現場の教員が調査結果に基づいて「子どもたちの学力を上げるにはどうしたら良いか」「いい授業に変えるにはどうしたら良いか」などを考えることができるようにアクティブ・ラーニングの手法を用いた協働的な分析ワークショップです。

学力調査をするだけでなく、結果を「読む」こと、結果を「活かす」ことがますます重要になってきています。

- 研修会アジェンダ（例）
1. 分析手法の解説
 2. グループワーク①
調査結果をチームに分かれて分析
 3. グループワーク②
チームを組み替えて、分析から分かったことを共有・統合
 4. 全体共有・まとめ